

# 集落調査の結果



平成24年3月16日

総務省地域力創造グループ

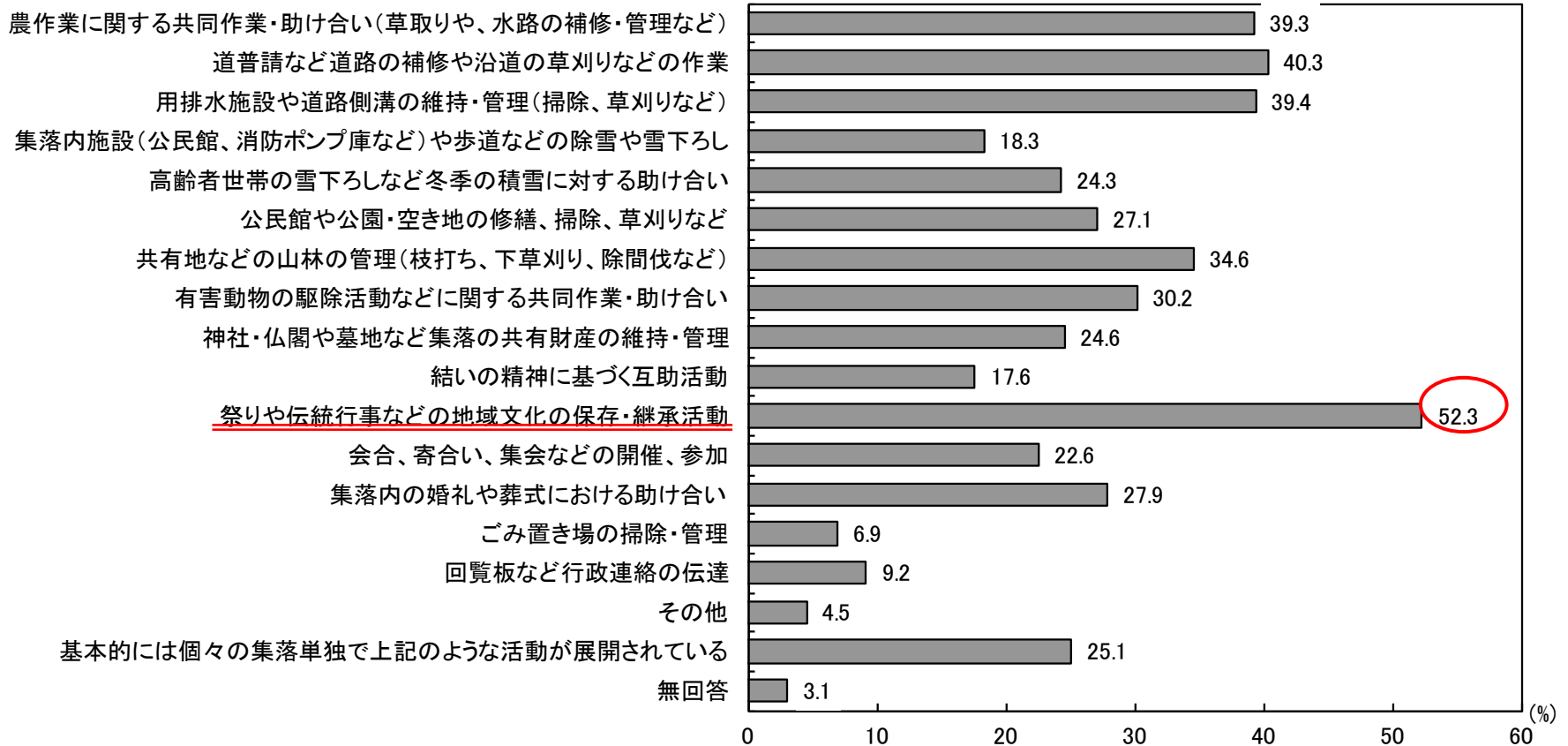
過疎対策室

# 過疎地域集落での問題の発生状況

○過疎地域等で発生している問題や現象について全国的な傾向を見ると、集落単独での維持が困難となっているのは、農作業や草刈り、用排水路の維持管理、山林の管理や有害動物の駆除との回答が多かったが、**最も困難になっているのは「地域文化の保存・継承活動」**であり、地域社会を維持していく上で、集落固有の祭りや伝統行事が消滅していくことへの危機感強い。

「過疎地域における集落対策及びソフト事業の実施状況に関する調査(平成23年度総務省調査)」

## 集落単独では維持が困難になっている活動

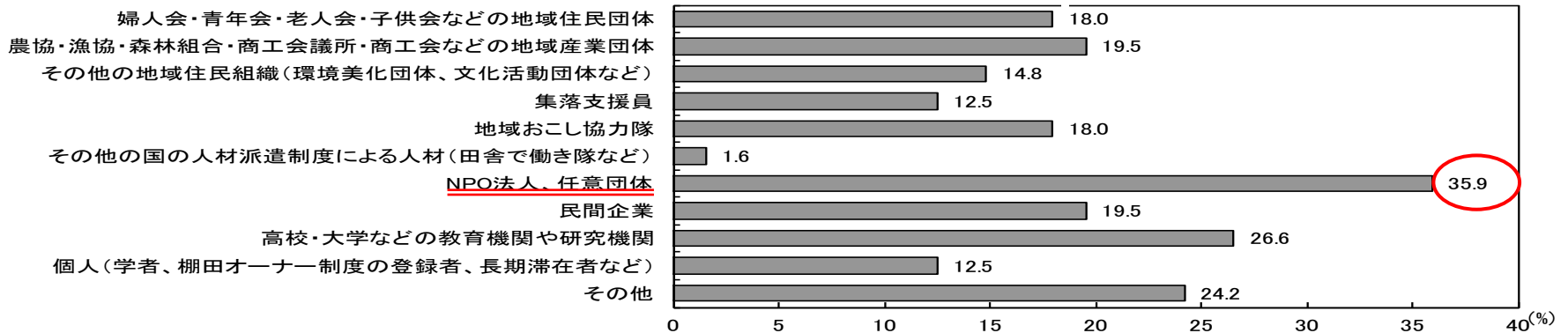


# 集落機能の維持・活性化の担い手、参画のきっかけ

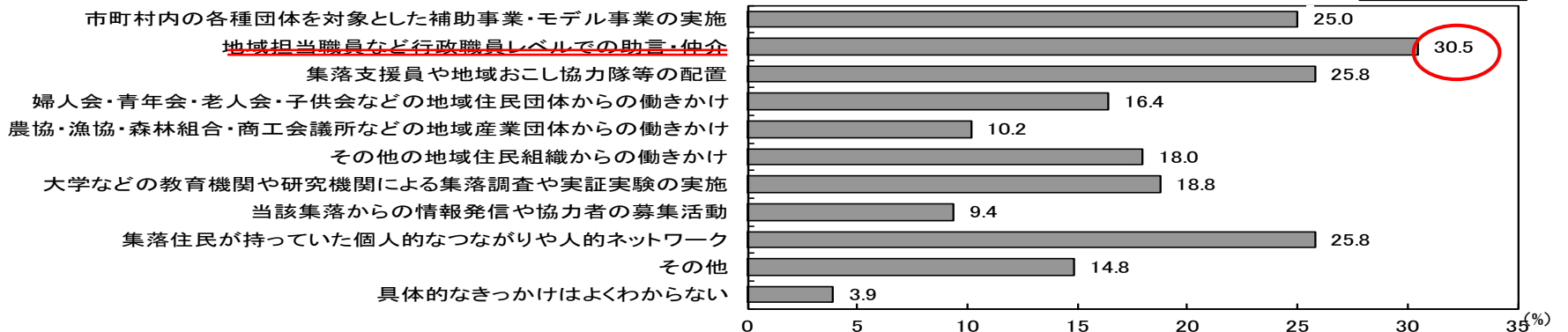
- 集落単独では維持が困難になった活動に参加・協力している集落外の主体として、「NPO法人、任意団体」が最も多く、次いで「高校・大学などの教育機関や研究機関」や「農協・漁協・森林組合・商工会議所・商工会などの地域産業団体」などの参画が比較的多くみられるほか、「地域おこし協力隊」も多くみられる。
- 集落外の主体が参加・協力するようになったきっかけとして、「地域担当職員など行政職員レベルでの助言・仲介」と「集落住民が持っていた個人的なつながりや人的ネットワーク」、「集落支援員・地域おこし協力隊等の配置」が多くなっているほか、「市町村内の各種団体を対象とした補助事業・モデル事業の実施」がきっかけとなった例も多くみられるなど、これまでの行政が行ってきた集落対策が一定の効果을あげているといえる。

「過疎地域における集落対策及びソフト事業の実施状況に関する調査(平成23年度総務省調査)」

## 集落活動を支援している「集落外の様々な主体」



## 集落活動に集落外の主体が参加・協力するようになったきっかけ



# 集落機能や集落活動の維持・活性化に係る特徴的な取組事例

○本アンケート調査では、集落機能や集落活動の維持・活性化を図っている特徴的な取組を収集し、合計で310事例が寄せられたが、「機能的再編のタイプ」と「集落外の主体の支援の有無」に着目して整理すると、以下のとおり分類・類型化できる。

○また、これらの各類型のそれぞれ代表的・特徴的な取組事例について、現地調査を行った。

「過疎地域における集落対策及びソフト事業の実施状況に関する調査(平成23年度総務省調査)」

## 集落活動の維持・活性化の類型

集落活動の維持・活性化のパターン		集落外の主体の支援の有無	
		1. 外部からの支援あり	2. 外部からの支援なし
機能的再編のタイプ	a. 複数集落を束ねる新たな地域マネジメント型組織を設立	岡山県真庭市 「二川ふれあい地域づくり委員会」	京都府宮津市 「吉津げんき会」
	b. 複数集落が特定分野で連携する新たなテーマ型組織を設立	島根県邑南町 「安夢未プロジェクト」	宮崎県都城市 「笛水地区活性化委員会」
	c. 他の集落とは連携せず単独集落としての機能を強化	愛知県豊根村 「NPO とみやま交流センター」	長野県長野市 「ロハス茸菜里」

## 集落プロフィール

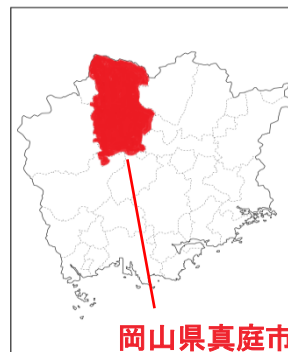
## ○岡山県真庭市二川地域

- ・真庭市の北西部、旧湯原町に位置し、22集落(自治会)により形成
- ・比較的平坦な地形が多く、地域の総面積は約65km<sup>2</sup>
- ・地域の人口:603人(235世帯) 高齢化率:46.1%(H23年12月現在)

## 取組のポイント

○「集落機能再編・強化モデル事業」により県から紹介・派遣された専門家の指導による防災マップづくり等、**人的支援により地域の活動内容や取組体制に厚み**が生まれ、より充実した地域活動の展開に大きく寄与。

○岡山県の「**おかやま元気！集落**」に登録されたことにより、自分たちの活動が評価されたことへの**誇りと自負が芽生え**、新たな活動への意欲が高揚。



(ふるさと宅配便)



(ふれあい弁当事業)

## 取組の概要

## 取組内容

## ○取組の歩み

## &lt;第1段階(平成11年～):活動の萌芽&gt;

- ・地域独自の取組として地元の農産物等を市外に転出した出身者等に送る「ふるさと宅配便」事業を展開。

## &lt;第2段階(平成20～21年度):活動の土台づくり&gt;

- ・平成20年度に県の「集落機能再編・強化モデル事業」のモデル地区に選定。
- ・同モデル事業の推進組織である「二川ふれあい地域づくり委員会」が設立され、以下のような取組を実施。  
【取組事例】「二川地域活性化プラン」の策定、防災マップの作成(住民参加のワークショップ、まちあるきなども実施)

## &lt;第3段階(平成22年度～):活動の継続、発展&gt;

- ・平成22年度からは、「二川ふれあい地域づくり委員会」を再編・増員し、真庭市の「集落機能再編・強化事業」を活用して二川地域を紹介するパンフレットを作成したり、県の「おかやま元気！集落」に登録し、おかやま元気！集落間のネットワーク化を図る情報交換会へ積極的に参加するなど他地域との交流も図っている。

## ○活動の現状

- ・地域の独居高齢者への配食サービス(ふれあい弁当事業)等の**保健福祉活動**、地域の特産品開発や農産物生産に係る研修の実施等の**産業振興活動**、納涼大会、魚のつかみどり大会などの**地域交流活動**を**活発に展開**。

## 取組への行政の支援

○平成20年度にモデル地区に選定されて以降、集落機能の維持・強化に係る活動や特産品加工施設の整備への助成、専門家の派遣、取組の情報発信及び各種研修会の開催など、市と県が緊密に連携を図りながら継続的な支援を実施している。

# 「吉津げんき会」の活動事例 ～ 京都府宮津市吉津地区～

## 集落プロフィール

### ○京都府宮津市吉津地区

- ・宮津市の南部、阿蘇海に面した比較的平坦な5集落で構成されているエリア。
- ・集落規模としては比較的大きい地域であるが、高齢化が目立つ集落もみられる。
- ・集落人口: 1, 787人(695世帯) 高齢化率: 32% (H24年1月1日現在)

## 取組のポイント

- 広域的なまちづくりを考える**マネジメント組織である「吉津げんき会」を中心に**、各団体が自治会とともに地区を構成する一員として話し合い、協力し合う関係を構築することによって、もともと活発だった各団体の活動を活かしながら**地区全体の活動へと発展させることに成功**している。

## 取組の概要

### 取組内容

#### ○取組の歩み

##### <第1段階(平成18～19年度):土台づくり>

- ・宮津市による「地域会議」の設置の呼びかけ→「地域会議」の第1号として、平成19年3月に「吉津げんき会」を設立。

##### <第2段階(平成19～23年度):活動の展開>

- ・吉津地区の全住民を構成員とし、各自治会のほか、吉津地区内の各団体の代表等が委員となり運営。構成する様々な団体がそれぞれの得意分野で中心的な役割を果たしながら、地区全体の活動としての牽引。
- ex.桜の植樹(老人会)、シバザクラの植栽・高齢者ふれあいサロン(婦人会)、マンパワーを必要とするもの(壮年会・青年会)など。

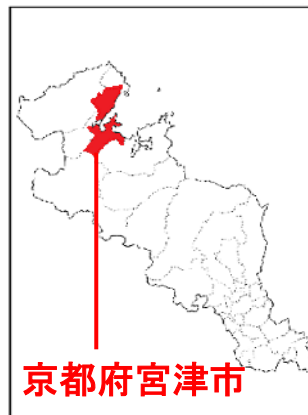
#### ○活動の現状

- ・平成19年3月の設立以来、桜の植樹や無人駅となった北近畿タンゴ鉄道岩滝口駅の構内でのシバザクラ苗植えなどといった美化活動、自家用農作物を集めた朝市の開催や地区のお祭りなどのイベント活動を積極的に行うだけでなく、吉津地区の歴史・文化の継承活動を行うなど、活動内容は多岐に渡っている。

### 取組への行政の支援

- 平成19年度より地域会議に対して、用途を限定しない活動費として年間10万円の支援をする「地域会議交付金」を交付。
- 平成20年度から市民との協働によるまちづくりを進めることを目的として、宮津市まちづくり基金を財源とした「宮津市まちづくり補助金」事業を実施。※ <対象:市民が主体的に参画し、まちづくり活動を行う団体やグループ等、補助率:1/2、限度額:100万円)>

秋祭りの様子(婦人会による屋台出店)



京都府宮津市



平成23年12月には北近畿タンゴ鉄道岩滝口駅構内にシバザクラの苗を3千本植えた。

## 集落プロフィール

### ○島根県邑南町市木地区(旧瑞穂町)

- ・邑南町の南西部に位置し、9集落で構成されるエリア  
西日本最大級のスキー場「瑞穂ハイランド」があり、県内でも有数の豪雪地
- ・**集落人口:485人(211世帯) 高齢化率:43.3%(H23年4月末現在)**

## 取組のポイント

- 地域づくり活動のポテンシャルの高い地域に対して人や財、情報、技術を集中的に投入し、行政が地域主体の活動を下支え**



従前の取組みをただ継続的に行うだけにとどまらず、**様々な地域の挑戦的取組を後押しし、他にない活発な活動が展開**されている。

## 取組の概要

### 取組内容

#### ○取組の歩み

【平成15年度】従来、自治会未構成→行政の呼びかけにより、9集落で1つの市木自治会を形成

#### 【平成19年度】

・行政の呼びかけにより、「市木地区夢づくりプラン」を策定

**自治会役員、各集落住民により、「住環境」「産業」「人づくり」「福祉」の各分野で地域課題の洗い出し、行動計画を策定**

#### 【平成20年度～22年度】

・**県の「中山間地域コミュニティ再生重点プロジェクト事業」のモデル地区に選定**→推進組織(安夢未プロジェクト)を新設し、活動を展開

・**最大目標に「存続危機の小学校存続」を掲げ、Uターン者の促進を図る。**

#### ○具体的な活動内容

農地実態調査、市木地区の文化財をカルタにした「市木カルタ」の看板設置、竹炭作り、スタードームの制作、「森の散歩道」の整備、スキー場での交流イベントの企画・実施等

### 取組への行政の支援

○県の「中山間地域コミュニティ再生重点プロジェクト事業」(H20～22年度)

→「**集落を越えた地域運営の仕組みづくり**」に取り組む指定市町村に対して、**人的・財政的支援(補助率2/3 5百万円を限度)**

○県事業終了後、町事業(邑南町地域コミュニティ再生事業)として引き続き支援(H23年度～)



## 集落プロフィール

## ○宮崎県都城市笛水地区(旧高崎町)

- ・都城市の北部、高崎地域の北東部に位置する4集落で構成されるエリア。
- ・高崎地域の中心部から最も遠隔にあり人口減少・高齢化が進行。
- ・集落人口:401人(165世帯) 高齢化率:32.2% (H24年2月1日現在)

## 取組のポイント

○個々の集落での開催が困難になった「十五夜まつり」を4集落合同で実施することにより、**地域の一体感・連帯感を再生**することに成功。

○地元住民の手で農産物直売所を建設・運営する取組や各種活動が、市内外から注目されるとともに、県の「いきいき集落」に認定されたことも、**地区住民の誇りとやる気につながり**、様々な地域づくり活動の展開へと結びついている。

## 取組の概要

## 取組内容

## ○取組の歩み

## &lt;第1段階(平成14～15年度)&gt;

- ・県の過疎地域活性化事業のモデル地区として指定

## &lt;第2段階(平成16～17年度):土台づくり&gt;

- ・モデル事業時のメンバーを中心に「笛水地区活性化委員会」を組織し、事業終了後も新たな活動を展開し始める。

## &lt;第3段階(平成18～19年度):活動の継続&gt;

- ・活性化委員会に組織された3部会で地域活性化の様々な活動を活発に実施

ex..地域住民の出資や出身者の寄付のみで、農産物直売所「茅葺の里『笛水』」を住民ボランティアの手作りで建設。  
沿道の草刈り、植樹、花壇の整備といった美化活動を、地区全体の活動として集落が連携して実施。

## &lt;第4段階(平成20年度～):活動の評価、発展&gt;

- ・これらの取組が評価され、県の「いきいき集落」の認定も受けたことも、多くの住民の地域活動への参加意欲を高めた。

## ○活動の現状

- ・単独集落では開催が困難になった集落もあったため、「十五夜まつり」を地区全体で合同開催するなど、地域のつながりを強化する取組を活発化。
- ・笛水地区の活動状況の視察や、農産物直売所「茅葺の里『笛水』」には多くの地域から見学者が訪れている。

## 取組への行政の支援

○平成20年度に都城市内で初となる県の「いきいき集落」に認定され、**集落の取組に対して県の事業支援を受けた。**

※「いきいき集落」応援事業...中山間地域で住民主体の元気な集落づくりに取り組み集落を県が認定、集落活性化の取組を支援する事業。



宮崎県都城市

集落連携による花壇整備の取組(写真右)



茅葺の里「笛水」(写真上)





## 集落プロフィール

### ○愛知県豊根村富山区(旧富山村)

- ・合併した旧富山村がひとつの行政区となった。
- ・豊根村の北東部に位置し、北は長野県、東は静岡県に隣接。
- ・峻険な山岳と深い峡谷に挟まれた急傾斜地に5集落が形成されているが、若年層は村営住宅のある久原集落に集中しており、その他の集落では65歳以上が半数以上を占めている。

・行政区人口:125人(68世帯) 高齢化率:48.8% (H24年3月1日現在)



## 取組のポイント

○20年以上の歴史がある山村留学を通じて、子どもだけでなく事業活動の担い手として外部人材を引き込むことで、消防団・青年会といった地域活動の維持強化、祭などの地域文化の保存・継承を図っている。



山里の自然を満喫(魚取り) 村人から郷土料理を習う

## 取組の概要

### 取組内容

#### ○取組の歩み

##### <第1段階(昭和60年度):事業の開始>

- ・昭和30年のダム建設による74世帯398人の集団離村以降人口の流出が進み、子どもの数が著しく減少  
→ 昭和60年度:教育団体・財団法人「育てる会」との連携で山村留学事業を開始  
平成12年度:山村留学事業を富山村の総合計画に位置づけ、自治体独自の事業として実施。

##### <第2段階(平成18年度~):外部人材による運営>

- ・豊根村との合併を機に、山村留学事業が民営化される。
- ・平成18年4月に「NPO法人とみやま交流センター」を設立。1ターン者4~5名が職員として山村留学事業を引き継いで取り組んでいる。

#### ○活動の現状

- ・NPO職員は全て30歳前後の1ターン者であり、富山区でも数少ない若年世代であるため、青年会・消防団や伝統行事の重要な担い手となり集落の活動を支えている。
- ・人件費は豊根村からの補助金でまかなわれており、山村留学事業等で自主運営を行うには至っていないことが課題。

### 取組への行政の支援

- 山村留学事業への補助のほか、教育交流センターを無償貸与

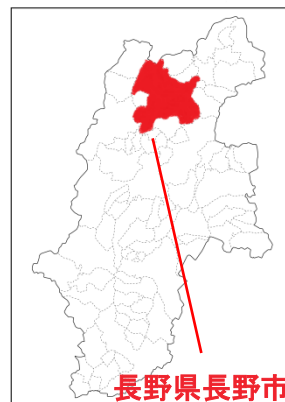
## 集落プロフィール

### ○長野県長野市鬼無里(きなさ)地区

- ・長野市の西端に位置し、40集落(自治会)により形成
- ・周囲を山々に囲まれた盆地的な溪谷形をなしており、面積の9割は森林
- ・地域の人口:1,762人(763世帯) 高齢化率:50.1%(H24年1月現在)

## 取組のポイント

- 市の企画事業を契機として、地域**住民が自主的に集落の整備に取り組み、オーナー制度運営や体験交流に発展。**
- 地域住民・オーナーともに**活動に参加出来る人が担うという無理をしない役割分担が、継続的な協働を実現。**
- 地元の市職員OBが「ロハス茸菜里」の自立的な活動を牽引するとともに、**行政とのパイプ役として機能。**



長野県長野市



## 取組の概要

### 取組内容

#### ○取組の歩み

##### <第1段階(平成20年度):活動の土台づくり>

- ・長野市が平成18～22年度まで展開した「1,200万人観光交流推進事業」の中で、平成21年度は「鬼無里イヤー」と位置づけ。
- ・具体的な取組を検討していく中で、集落の見通しを悪くしている支障木を伐採して地区景観を改善するとともに、伐採した支障木を活用した茸オーナー制度を導入して都市住民との交流を図ることに。その活動主体として平成20年度に「ロハス茸菜里」を立ち上げ。

##### <第2段階(平成21年度～):活動の展開>

- ・平成21年度にオーナーの募集を行ったが、市内や首都圏から予想を上回る応募。秋にはきのこオーナーとの交流会を実施。

#### ○活動の現状

- ・オーナー会員は、ほだ木への菌打ちや収穫はもとより、周辺の草刈りや獣害避けの網張りなど折々に地区を訪れて活動に参加。
- ・「ロハス茸菜里」ではオーナーの来訪と併せ様々な地区住民との交流イベントを企画・実施。
- ・茸の発生周期は4年であることから、オーナー契約は4年を前提としているが、契約が切れる平成25年度以降も継続して欲しいとの要望が出てきている。

### 取組への行政の支援

- 地域の元気を生み出すモデル的で発展性のある事業への「長野県地域発元気づくり支援金」(ソフト事業 10/10、ハード事業 2/3)
- 市職員のOB等地域の実情に精通した人材を「地域活性化推進員(集落支援員)」として中山間地域へ配置

# 過疎地域等における集落の現状・今後の対策

## ○集落の現状

### ①単独集落で維持が最も困難になっているのは祭・伝統文化

集落単独での維持が最も困難になっているのは「地域文化の保存・継承活動」であり、地域社会を維持していく上で、集落固有の祭りや伝統行事が消滅していくことへの危機感は強い

### ②集落活動に多様な主体が参画するようになったきっかけの多くは行政

集落外の様々な主体の参画により集落活動が展開されている背景には、行政による地域担当職員の働きかけや集落支援員などの人的支援施策などがきっかけとなっている事例が多い

### ③集落活動の継続的な担い手はボランティアやNPO

行政の働きかけや人的支援施策等により始まった集落活動を継続的に維持していくには、地域自らによる自主的・自立的な活動とともに、それに対する住民団体やNPO等による活動支援が重要。実際に多くの市町村からも、ボランティアやNPO等の参画促進による活動の担い手確保の必要性が指摘されている。

## ○今後の対策に向けて

- ・地域固有の文化を今後も継承していくためには？
- ・集落活動を支援するために、行政はどういった支援を行うべきか？
- ・集落の自主・自立的な維持、活性化を効果的に行うには？